

「セーリング研修会」開会式挨拶

(3月6日(水) 於：ダナン市スアンティウビーチ)

- グエン・ハイ・ズオン ベトナム・セーリング連盟副会長、
 - 日本から来られた佐藤コーチ、渡辺コーチ、村田コーチ、
李東潤日本セーリング連盟国際委員
 - 研修に参加される皆様。
- 日本政府を代表して、日越両国のセーリング連盟、ヤクルトベトナムをはじめ本研修会開催にご尽力いただいた全ての関係者への感謝とともに、一言ご挨拶を申し上げます。
- また、本研修会実現の背景には、昨年9月まで日本大使館に勤務していた永井公使（現在スイス・ジュネーブで勤務）が、日越両国セーリング協会間の橋渡しをされたことがあります。永井公使自身もウインドサーフィンの選手です。
- 日越関係について少し説明させていただきます。現在、日越両国の間には、指導者間の厚い信頼関係に加え、国民間にも強い親近感が存在しています。そして、政治・安全保障、経済、文化・スポーツ分野も含め、全ての分野で関係は急速に緊密化しています。

●また、ダナンは、ベトナム中部の中核都市であるのみならず、南シナ海を望む「戦略的要所」に位置し、ダナンの経済的发展とダナンとの関係強化は、日本の国益にとってもとても重要です。

●既に、日本とダナンは、投資分野、観光分野、地方公共団体連携に加え、この数年、海上自衛隊や海上保安庁の船も毎年ダナンに寄港し、信頼関係を強化しています。現在（3月5日—8日）、偶然、海上自衛隊の練習艦2隻が約4百名の隊員と共にダナンに寄港しています。また、来年1月、日本政府は当地に領事事務所を開設予定です。

●今回、セーリングという新たな分野において、日本とベトナム間の交流が開始される事、そしてそれがダナンの地、とりわけ、古くは日本からの御朱印船が行き来していたとされるこの湾で行われるという二つの意味で大変有り難く思います。

●来年2020年オリンピック・パラリンピックは、東京で開催されますが、日本政府は、東京大会決定を契機に、「スポーツ・フォー・トゥモロー」というスポーツ普及プログラムを推進しており、今回の指導者派遣もその一環として行われます。

●今回、日本を代表する4人の優秀な指導者にお越しいただきました。研修生の皆さんには、今回の研修を通じて個々のスキルアップを図るとともに、是非、将来のベトナム・セーリング界を引っ張るリーダーになっていただきたいと思えます。また、今回の研修を契機に、日越間のパートナーシップが築かれることを心より期待致します。

●最後に、皆様の御健勝、研修会の成功、日越関係の益々の深化を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。
ご静聴ありがとうございました。

(了)